

鈴木款先生をおくる・略歴・業績目録

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学地球科学教室 公開日: 2013-08-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 塚越, 哲 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00007426



鈴木 欽

鈴木 欽先生をおくる

理学部地球科学科教授・鈴木欽先生は、平成25年3月をもって定年を迎えるされました。鈴木先生は、昭和22年10月17日に静岡県でお生まれになり、昭和47年3月に静岡大学工学部を卒業、同56年7月に名古屋大学より博士号を授与されました。大学卒業後は昭和47年4月より約1年間、財団法人・日本分析化学研究所に勤務された後、本学に赴任されるまでの約20年間を気象研究所で勤務されました。平成5年4月に本学理学部地球科学科助教授として赴任された後、同8年4月には教授に昇任されました。また、本学に創造科学技術大学院が創設されてからは、その専任教員としてご専門である大気・海洋の物質循環の研究を推進され、大学院の教育ならびに運営に並々ならぬ力を発揮されました。

平成4年より地球科学科と生物学科とが合流して一つの学科・生物地球環境科学科が発足しましたが、鈴木先生はこの2つの学問領域の橋渡し役を期待されました。外部から着任されて異なる領域を結びつける役割を担うご負担は、お察しして余りあるものであるはずですが、天性の明るさと頼まれるといやとは言えない温厚なお人柄、また聴き手の心を掴む先生のお話しぶりが功を奏したのでしょう、生物地球環境科学科解消後も、大学院を中心に学内全体に環境学という大きな潮流を定着させる立役者となられました。

鈴木先生は本学ご在籍中に、サンゴ礁やマングローブ林などの沿岸生態系の研究を中心に夥しい数の研究プロジェクトを推進されました。これらの研究内容は、地球環境の保全が人類の最重要課題と認識され始めた今の時代によくマッチし、マスコミを通じて国内外に広く知れ渡ることとなって、鈴木先生は時代の寵児ともいえる存在となりました。鈴木先生の存在が、本学のイメージやステータスのアップにどれだけ貢献されたか計り知れません。鈴木先生はそのご出身から中央官庁とは常に太いパイプをお持ちであり、これをもって潤沢な外部資金で常に大学全体を潤わせることにもご尽力くださいました。このことは、鈴木先生を学内ではますますお忙しいお立場へと追い込むこととなってしまいましたが、新設された大学院の管理運営を中心に、身を粉にして本学のためにご尽力くださいました。しかし、そのようなお立場にありながらも、決して「現場」から心が離れる事なく、常に研究者・教育者のお立場から、為政者に対して毅然とした態度を取ってこられました。

鈴木先生の大学でのご在職期間は、20年と決して長くはありません。しかしその間に博士課程まで進学した19名を含む70余名にのぼる学生を鈴木研究室は輩出しました。これは常にアクティブな鈴木先生の力が、研究や組織運営にのみ注がれていたのではなく、学生たちの教育にも惜しみなく注がれていたことを意味しています。鈴木研究室の学生たちは総じて仲が良く、常に和気あいあいとして各々の研究課題に取り組んでいました。おそらく、鈴木先生の心の中にある、次世代のために地球環境を守りたい、そしてより良い教育環境を整えたいというお志に根ざしていると思われます。鈴木欽先生のこのたびのご退職はまことに残念でありますが、今後のますますのご活躍とご健康を祈願して、おくる言葉とさせていただきます。

2013年3月

理学部地球科学科
学科長 塚越 哲

鈴木 欽先生の略歴

学歴

昭和47年3月 静岡大学工学部工業化学科卒業

学位

理学博士（名古屋大学） 昭和56年7月13日

論文名 海洋におけるセレンの地球化学的研究

職歴

昭和47年4月 財団法人日本分析化学研究所（昭和49年5月まで）
49年10月 気象研究所技術補佐員（昭和50年2月まで）
50年4月 気象研究所技術補佐員（昭和50年8月まで）
50年10月 気象研究所技術補佐員（昭和51年2月まで）
51年4月 気象研究所丙種日雇職員（昭和51年4月まで）
51年6月 気象研究所技術補佐員（昭和51年9月まで）
51年11月 気象研究所技術補佐員（昭和52年3月まで）
52年5月 気象研究所技術補佐員（昭和52年9月まで）
52年11月 気象研究所技術補佐員（昭和53年3月まで）
53年5月 気象研究所技術補佐員（昭和53年9月まで）
53年11月 気象研究所技術補佐員（昭和54年3月まで）
54年5月 気象研究所技術補佐員（昭和54年8月まで）
54年10月 気象研究所技術補佐員（昭和55年1月まで）
55年5月 気象研究所技術補佐員（昭和55年9月まで）
55年11月 気象研究所技術補佐員（昭和56年3月まで）
56年5月 気象研究所技術補佐員（昭和56年9月まで）
56年11月 気象研究所運輸技術官（平成5年3月まで）
平成5年4月 静岡大学理学部助教授
8年4月 静岡大学理学部教授
18年4月 静岡大学大学院創造科学技術研究部教授

表彰

昭和51年7月 サンケイオーチャンスカラー賞「海水中の有機金属錯体の定量法」
57年4月 日本海洋学会岡田賞（研究奨励賞）「海洋におけるセレンの地球化学的研究」
平成元年4月 科学技術庁長官賞「海水中の溶存有機炭素および窒素の精密分析法の研究」

- 3年5月 三菱財団研究奨励賞「微量粒子の環境における役割」
22年4月 海洋化学学術賞「海洋における有機物の循環と生物共生系に関する研究」
23年7月 海洋立国推進功労者（内閣総理大臣賞・科学技術振興部門）「海洋の炭素循環やサンゴ礁の研究」

学内における活動

- 平成12年4月 静岡大学大学院理工学研究科副研究科長（平成14年3月まで）
19年5月 静岡大学大学院創造科学技術研究部静岡院長

所属学会

- 昭和56年1月 米国地球物理学連合
61年1月 米国海洋学会
平成4年1月 米国陸水・海洋学会
6年1月 生態工学会
9年 日本サンゴ礁学会
在籍期間不明 日本地球化学会
日本化学会
化学工学会
水産海洋学会
国際サンゴ礁学会
生態工学会

学会・社会における活動

- 昭和63年 日本地球化学会評議委員・幹事（昭和64年まで）
平成7年 静岡県深層水有効利用事業推進委員会委員（平成15年まで）
8年 環境庁国立環境研究所地球モニタリング委員会委員（平成13年まで）
8年 財団法人地球環境産業技術研究機構二酸化炭素固定化委員会委員（平成12年まで）
8年 NEDO-RITE二酸化炭素固定化・有効利用プログラム方式選定委員会委員（平成18年まで）
9年 焼津市深層水有効利用事業推進・運営委員会委員（平成16年まで）
10年 地球科学技術推進機構大気組成変動委員会委員
11年 地球環境産業技術研究機構（RITE）地球再生委員会委員（平成15年まで）
12年1月 日本サンゴ礁学会評議委員（現在に至る）
12年8月 第10回国際サンゴ礁シンポジウム国際科学プログラム委員会委員長
13年 文部科学省海洋地球課日仏海洋開発技術委員会委員
14年 国際サンゴ礁学会評議委員（現在に至る）
14年 NEDO環境調和型技術開発・先導研究審査・評価委員（平成16年まで）
15年 経済産業省二酸化炭素固定化3事業制度評価委員会委員
17年 財団法人地球環境産業技術研究機構プログラム方式二酸化炭素固定化・有効利用平成17年 技術開発人工湧昇流海域におけるCO₂吸収量の評価技術の開発研究推進委員会（平成18年まで）
17年 財団法人環境科学技術研究所青森県受託業務「平成17年度物質循環要素技術実験調査」を遂行する

- ための閉鎖系要素技術検討委員会委員（平成18年まで）
- 17年 静岡県水産振興審議会委員（平成20年まで）
- 18年 勤環境科学技術研究所青森県受託業務「陸・水圏生態系炭素移行実験調査」を遂行するための陸・水圏生態系検討委員会委員（平成22年まで）
- 18年 （独）国立環境研究所地球環境モニタリング・データベース検討会委員
- 20年 （独）水産総合研究センター中央水産研究所小課題評価会議外部委員
- 20年 （独）日本学術振興会科学研究費委員会委員
- 21年 （独）日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員及び国際事業委員会書面審査員（平成22年まで）
- 23年 トリチウム移行検討委員会委員
- 23年 科学技術振興調整費「岐阜大学流域環境リーダー育成拠点形成事業」外部評価委員会委員

業 績 目 錄

著 書

- 鈴木 款編 (1997), 海洋生物と炭素循環. 東京大学出版会, 東京, 193p.
- 鈴木 款 (1999), 破局の兆しから目をそらしてこなかったか. 二十世紀とは何だったの (静岡新聞社編), 静岡新聞社, 静岡, 187–206.
- 鈴木 款 (2000), CO₂ の鉱物隔離, CO₂ 固定化・隔離の最新技術 (乾 智行編), シーエムシー社, 東京, 124–138.
- Suzuki Y. & Casareto B. E. (2011), The role of dissolved organic nitrogen (DON) in coral biology and reef ecology. In: Dubinsky Z. & Stambler N. (eds.) *Coral Reefs: An Ecosystem in Transition*, Springer Publishers, 207–214.
- 鈴木 款 (2011), 見えない自然の循環が生命を支える—サンゴ礁からのメッセージ. ゆとりと生命をめぐつて生命の教養学VI (鈴木晃仁編), 慶應義塾大学出版会, 東京, 55–75.
- 鈴木 款・大葉英雄・土屋 誠編 (2011), サンゴ礁学, 東海大学出版会, 神奈川, 280p.

論 文

- Sugimura Y. & Suzuki Y. (1976), A new fluorometric method of analysis of selenium in sea water. *Journal of the Oceanographic Society of Japan*, **34**, 23–29.
- Suzuki Y., Miyake Y., Saruhashi K. & Sugimura Y. (1980), A cycle of selenium in the ocean. *Papers in Meteorology and Geophysics*, **31**, 185–189.
- Suzuki Y., Sugimura Y. & Miyake Y. (1981), The content of selenium in sea water in the western North Pacific and its marginal seas. *The Kurohio IV: Proceedings of the 4th Symposium for the Co-operative Study of the Kuroshio and Adjacent Regions*, Tokyo, Japan, February 14–17, 1979, 396–414.
- Suzuki Y. and Sugimura Y. (1987), Distribution of selenium in the Western North Pacific Waters: Re-evaluation of dissolved organic selenium. *The Journal of Earth Sciences, Nagoya University*, **35**, 305–324.
- Kirchman D. L., Suzuki Y., Garside C. & Ducklow H. W. (1991), High turnover rates of dissolved organic carbon during a spring phytoplankton bloom. *Nature*, **352**, 612–614.
- Suzuki Y. & Tanoue E. (1991), Dissolved organic carbon enigma: Implications for ocean margin. *Ocean Margin Processes in Global Change: Report of the Dahlem Workshop on Ocean Margin Processes in Global Change*, Berlin, March 18–23, 1990, 197–209.
- Suzuki Y., Tanoue E. & Ito H. (1992), High temperature catalytic oxidation method for the determination of dissolved organic carbon in seawater—analysis and improvement. *Deep-Sea Research Part A*, **39**, 185–198.
- 鈴木 款 (1993), 化学的手法で海洋深層循環像をどこまで描けるか. 海洋科学, **4**, 178–184.
- Benner R., Bodungen V., Farrington J., Hedges J., Lee C., Mantoura F., Suzuki, Y. & Williams P. M. (1993), Measurement of dissolved organic carbon and nitrogen in natural waters. *Marine Chemistry*, **41**, 5–10.
- Chen R. F., Bada J. F. & Suzuki Y. (1993), The relationship between dissolved organic carbon and fluorescence in anoxic marine porewaters: Implications for estimating benthic DOC fluxes. *Geochimica et Cosmochimica Acta*, **57**, 2149–2153.

- Williams P. J. leB., Bauer J., Benner R., Hegeman J., Ittekkot V., Miller A., Norrman B., Suzuki Y., Wangersky P. & McCarthy M. (1993), DOC subgroup report. *Marine Chemistry*, **41**, 11–21.
- Miller A. E., Mantoura R. F. C. & Suzuki Y. (1993), Preliminary study of DOC in the Tamar River. *Marine Chemistry*, **41**, 223–238.
- Sharp J. H., Suzuki Y. & Munday W. L. (1993), A comparison of dissolved organic carbon in North Atlantic Ocean nearshore waters by high temperature combustion and wet chemical oxidation. *Marine Chemistry*, **41**, 253–259.
- Suzuki Y. (1993), Dynamic cycle of dissolved organic carbon and marine productivity. *The Global Carbon cycle, Proceedings of a NATO Advanced Study Institute*, Il Ciocco, Italy, September 8–20, 1991, 531–549.
- Suzuki Y. (1993), On the measurement of DOC and DON in sea water. *Marine Chemistry*, **41**, 278–289.
- 鈴木 欽 (1994), 環境変動と化学的指標. 沿岸海洋研究ノート, **31**, 205–216.
- 鈴木 欽・伊藤 博 (1994), 地球環境における炭素循環と海水中の溶存有機炭素の測定法. 環境化学, **4**, 1–18.
- 鈴木 欽・長谷川国彦 (1994), 環境中のラドン分析の現状. ぶんせき, **7**, 527–53.
- Casareto B. E., Yoshida K., Suzuki Y. & Hiraga T. (1995), The role of a coral reef ecosystem in the biological fixation of CO₂. *Energy Conversion and Management*, **36**, 775–779.
- Kraines S., Nakashima N., Omori T., Suzuki Y., Yamada Y. & Komiyama H. (1995), A new methodology for evaluating carbon flux between a coral reef, the ocean, and atmosphere. *Energy Conversion and Management*, **36**, 733–736.
- Suzuki Y. (1995), A new generation of high temperature catalytic oxidation method for organic carbon. *Water Research*, **37**, 85–94.
- Suzuki Y. (1995), A role of coral reef to the response for the atmospheric CO₂. *Proceeding of International Workshop on Carbon Cycling and Coral Reef Metabolism*, Okinawa, Japan, October 17–24, 1995, 7–12.
- Suzuki Y. (1995), The global carbon cycle and the role of the ocean. *Geoscience Report of Shizuoka University*, **32**, 23–36.
- Suzuki Y., Nakashima N., Yoshida K., Casareto B. E., Taki M., Hiraga T., Okabayashi T., Ito H. & Yamada K. (1995), The important role of organic matter cycling for the biological fixation of CO₂ in coral reefs. *Energy Conversion and Management*, **36**, 737–741.
- 鈴木 欽 (1996), 海洋における二酸化炭素の循環—物理的・化学的过程からのアプローチ. 環境科学会誌, **9**, 519–530.
- Casareto B. E., Suzuki Y., Okada K. & Morita M. (1996), Biological micro-particles in rain water. *Geophysical Research Letter*, **23**, 173–176.
- Kraines S., Suzuki Y., Yamada K. & Komiyama H. (1996), Separating biological and physical changes in dissolved oxygen concentration in a coral reef. *Limnology and Oceanography*, **41**, 1790–1799.
- Suzuki Y. (1996), Dissolved organic copper compounds in seawater. *Geoscience Reports of Shizuoka University*, **23**, 41–56.
- 石川義朗・鈴木 欽・平賀哲男 (1997), 海水中のカルシウムの精密光度滴定法. 地球化学, **31**, 163–170.
- 栗本 順・鈴木 欽 (1997), 大気エアロゾル中のP-32の測定法の検討. 静岡大学地球科学研究報告, **24**, 79–86.
- 鈴木 欽 (1997), 環境中の有機炭素の微量分析法. 化学工学, **61**, 231–233.

- 鈴木 款 (1997), 自然の平衡と人間の平衡感覚. 生物の科学 遺伝, **51**, 1–2.
- 鈴木 款 (1997), 二酸化炭素の行方と炭素循環 (その1) 海洋の生物過程と有機物循環の役割. 静岡地学, **76**, 1–12.
- 古池聖生・鈴木 款 (1997), レーザー顕微鏡による降水中蛍光粒子の観察. 静岡大学地球科学研究報告, **24**, 69–78.
- 松本 豊・須藤雅夫・鈴木 款・榎本祥一 (1997), セラミック膜のファウリング現象 (1). ケミカルエンジニヤリング, **42**(7), 52–58.
- 松本 豊・須藤雅夫・鈴木 款・榎本祥一 (1997), セラミック膜のファウリング現象 (2). ケミカルエンジニヤリング, **42**(9), 53–62.
- Kraines. S, Suzuki Y., Omori T., Shitshima K., Kanahara S., & Komiyama H. (1997), Carbonate dynamics of the coral reef system at Bora Bay, Miyako Island. *Marine Ecology Progress Series*, **156**, 1–16.
- 鈴木 款 (1998), 二酸化炭素の行方と炭素循環 (その2). 静岡地学, **77**, 1–10.
- 鈴木 款 (1998), 二酸化炭素の行方と炭素循環—海洋の生物過程と有機物循環の役割. ケミカルエンジニヤリング, **43**, 35–44.
- 鈴木 款・中村昭彦・横堀尚之 (1998), 大気中の炭素質エーロゾル濃度の季節変化と粒径分布. 大気科学シンポジウム, 9–73.
- 鈴木 款・ペアトリス カサレト (1998), 黒潮混合域における粒子態有機物の動態. 海洋科学号外, **13**, 122–130.
- 中村昭彦・鈴木 款・滝 雅人 (1998), 降水連続採取による大気中化学成分の除去機構. 大気科学シンポジウム, 74–81.
- 松本 豊・須藤雅夫・鈴木 款 (1998), 電気精密濾過による発酵液からのタンパク質溶質の選択透過. 化学工学論文集, **24**, 810 – 813.
- Casareto B. E., Yoshida K., & Suzuki Y. (1998), Role of planktonic community in the carbon cycle of a coral reef at Miyako Island , Japan. *Proceedings of International Workshop on the CO₂ cycling and Metabolism in Coral Reef*, Kyoto, Japan, November 19–20, 1998, 17–26.
- Matusmoto, Y., Okada Y., Sudoh M. & Suzuki Y. (1998), Evaluation of adsorption properties of bovine serum albumin on TiO₂ membrane by quartz-crystal microbalance. *Membrane*, **23**, 87–94.
- Suzuki Y., Casareto B. E., Yoshida K., Shinomura Y. & Kurosawa K. (1998), Behavior of organic matters in coral reef water at Miyako Island, Japan. *Proceedings of International Workshop on the CO₂ cycling and Metabolism in Coral Reef*, Kyoto, Japan, November 19–20, 1998, 1–8.
- 岩田樹哉・鈴木 款 (1999), 栄養塩からみた暖水塊93Aの構造の検討. 静岡大学地球科学研究報告, **26**, 83–89.
- 黒沢勝彦・鈴木 款 (1999), サンゴ礁における窒素・リン循環の複合モデル. 静岡大学地球科学研究報告, **26**, 61–69.
- 篠村理子・ペアトリス カサレト・鈴木 款 (1999), 海水中におけるサブミクロン粒子状物質の動態. 静岡大学地球科学研究報告, **26**, 71–82.
- Asada T., Suzuki Y., Minakawa M., Ishikawa Y., Nojiri Y. & Wong C. S. (1999), Seasonal variation of Ca concentration and relationship between Ca and alkalinity in surface water of northern North Pacific. *Proceedings of International Symposium, CO₂ in the Oceans*, Tsukuba, Japan, January 18–22, 1999, 347–350.
- Matsumoto Y., Sudoh M. & Suzuki Y. (1999), Separation of bonito extract by ceramic composite UF membranes

- of sulfonated polysulfone coated on ceramics. *Journal of Membrane Science*, **157**, 139–144.
- 須藤雅夫・市川祥久・居波永治・Irvan・岡島敬一・鈴木 款・皆川昌幸・金森敏幸 (2000), 海水溶存二酸化炭素の連続計測のための光ファイバーセンサーの開発. 日本海水学会誌, **54**, 21–29.
- Casareto B. E., Suzuki Y., Fukami K. & Yoshida K. (2000), Particulate organic carbon budget and flux in a fringing coral reef at Miyako Island, Okinawa, Japan in July 1996. *Proceedings 9th International Coral Reef Symposium*, Bali, Indonesia, October 23–27, 2000, **1**, 95–100.
- Suzuki Y., Casareto B. E. & Atkinson M. (2000), A role of ocean system in the biogeochemical cycling. *Pacific Science*, **23**, 321–329.
- Suzuki Y., Casareto B. E. & Kurosawa K. (2000), Import and export fluxes of HMW-DOC and LMW-DOC on a coral reef at Miyako Island, Okinawa. *Proceedings of 9th International Coral Reef Symposium*, Bali, Indonesia, October 23–27, 2000, **1**, 555–559.
- 鈴木 款 (2001), 生物によるCO₂固定. 日本エネルギー学会誌, **80**, 818–827.
- 鈴木 款・大西由香・藤井 実 (2001), 海洋における二酸化炭素の吸収: 植物プランクトンの役割. 日本プランクトン学会報, **48**, 22–33.
- 須藤雅夫・市川恭久・岡島敬一・鈴木 款 (2001), 海洋二酸化炭素センサー. 日本海水学会誌, **55**, 297–306.
- 夏目崇匡・鈴木 款 (2001), 降水中の微生物粒子の存在量. 静岡大学地球科学研究報告, **28**, 57–65.
- 藤井 実・鈴木 款・小宮山宏 (2001), 公共測定データーを利用した東京湾の生物生産と栄養塩動態の関係把握. 沿岸海洋研究, **38**, 113–119.
- 元地宏昌・王 莉紅・鈴木 款・伊藤 博 (2001), 多孔質ガラスを用いた海水中の溶存有機物の分離の検討. 静岡大学地球科学研究報告, **28**, 67–74.
- Taki M. & Suzuki Y. (2001), Accumulation and export of dissolved organic carbon in surface waters of subtropical and tropical Pacific Ocean. *Journal of Oceanography*, **57**, 631–646.
- Wang L., Suzuki Y. & Ito H. (2001), Isolation of nano-colloidal organic matter from coastal Boral Bay seawater using porous glass filter as cross-flow filtration membrane. *Geoscience Reports of Shizuoka University*, **28**, 76–82.
- 大西由香・藤井 実・村重慎一郎・湯沢 篤・宮坂 均・鈴木 款 (2002), 海水中における有機物分解過程: 植物プランクトンを用いた分解実験. 日本海水学会誌, **56**, 17–25.
- 中島賢邦・太田良和弘・鈴木 款 (2002), 大気中の元素状炭素粒子の粒径分布. 静岡大学地球科学研究報告, **29**, 45–52.
- 名取雄太・岩田樹哉・篠村理子・鈴木 款 (2002), 駿河湾における窒素およびリンの季節変動. 静岡大学地球科学研究報告, **29**, 29–36.
- 日野 守・岩田樹哉・篠村理子・宗林留美・鈴木 款 (2002), 駿河湾における海水中の有機物の分解特性. 静岡大学地球科学研究報告, **29**, 23–28.
- 古田朱理・石川義朗・羽川貴弘・山本泰弘・鈴木 款 (2002), 油壺湾の海草藻場における有機炭素・窒素の循環. 静岡大学地球科学研究報告, **29**, 13–22.
- 森田理絵・宗林留美・鈴木 款 (2002), 降水中のアミノ酸濃度の定量. 静岡大学地球科学研究報告, **29**, 53–60.
- 八巻美樹・鈴木 款・宮坂 均・松井直弘 (2002), マングローブ林堆積物における有機物とメタンの動態. 静岡大学地球科学研究報告, **29**, 37–44.

- Fuji M., Murashige S., Ohnishi Y., Yuzawa A., Miyasaka H., Suzuki Y. & Komiyama H. (2002), Decomposition of phytoplankton in sea water. Part 1: Kinetic analysis on the effect of organic matter concentration. *Journal of Oceanography*, **58**, 433–438.
- Hansell D. A., Carlson C. A. & Suzuki Y. (2002), Dissolved organic carbon export with North Pacific Intermediate Water formation. *Global Biogeochemical Cycles*, **16**, 10.1029/2000GB001361.
- 辻 裕介・鈴木 欽 (2003), 駿河湾における溶存態有機物のサイズ特性. 静岡大学地球科学研究報告, **30**, 1–7.
- 羽川貴弘・鈴木 欽・宮坂 均・松井直弘 (2003), 石垣島マングローブ域堆積物における窒素化合物の動態. 静岡大学地球科学研究報告, **30**, 17–25.
- 羽田 彩・鈴木 欽 (2003), 駿河湾における生物起源珪素の分布と溶解過程. 静岡大学地球科学研究報告, **30**, 9–15.
- Fujii M., Murashige S., Ohnishi Y., Yuzawa A., Miyasaka H., Suzuki Y. & Komiyama H. (2003), Phytoplankton decomposition process (PDP) model dealing with carbon and nitrogen budget on particulate organic matter. *Journal of Chemical Engineering of Japan*, **36**, 401–410.
- Ikeda Y., Fukami K., Casareto B. E. & Suzuki Y. (2003), Refractory and labile organic carbon in coral reef seawater. *Galaxea, Journal of the Japanese Coral Reef Society*, **5**, 11–19.
- Kurosawa K., Suzuki Y., Tateda Y. & Sugito S. (2003), A model of the cycling and export of nitrogen in Fukido mangrove in Ishigaki Island. *Journal of Chemical Engineering of Japan*, **36**, 411–416.
- Suzuki Y., Fujii M., Casareto B. E., Furuta A. & Ishikawa Y. (2003), CO₂ sequestration and fate of organic matters within seagrass (*Zostera marina*) ecosystem. *Journal of Chemical Engineering of Japan*, **36**, 417–427.
- Yamada K., Suzuki Y., Casareto B. E. & Komiyama H. (2003), Possibility of high CO₂ fixation rate by coral reef ecosystems. *Greenhouse Gas Control Technologies: Proceedings of the 6th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies*, Kyoto, Japan, October 1–4, 2002, **1**, 817–822.
- Casareto B. E., Abe K., Ishikawa Y., Nitta K. & Suzuki Y. (2004), Bio-aerosols in the geo-sphere module of CEEF. *Eco-Engineering*, **16**, 39–44.
- Kurosawa K., Suzuki Y., Tateda Y. & Toriumi H. (2004), Fluxes of inorganic and organic nitrogen between the mangrove ecosystem along Fukido River and the adjacent coastal water. *Closed Habitation Experiments and Material Circulation Technology: Proceedings of the International Symposium on Closed Habitation Experiments and Material Circulation Technology*, Aomori, Japan, September 28–30, 2004, 452–457.
- Nakajima Y., Wada H., Matuzaki H. & Suzuki Y. (2004), Preparation method and its application for determination of ¹⁴C of the elemental carbon in the atmosphere. *Journal of the Mass Spectrometry Society of Japan*, **52**, 339–346.
- Natori Y., Haneda A., Iwata T., Suzuki Y. & Igarashi Y. (2004), Differences of behavior between nitrogen and phosphorus in degradation processes of organic matter in Suruga Bay. *Closed Habitation Experiments and Material Circulation Technology: Proceedings of the International Symposium on Closed Habitation Experiments and Material Circulation Technology*, Aomori, Japan, September 28–30, 2004, 444–451.
- Ohnishi Y., Fujii M., Murashige S., Yuzawa A., Miyasaka H. & Suzuki Y. (2004), Microbial decomposition of organic matter derived from phytoplankton cellular components in seawater. *Microbes and Environments*, **19**, 128–136.
- Suzuki Y. & Shioi Y. (2004), Changes in chlorophyll and carotenoid contents in radish (*Raphanus sativus*) cotyledons

- show different time courses during senescence. *Physiologia Plantarum*, **122**, 291–296.
- Ishikawa H., Matsuura Y., Yunokihara R., Mochizuki R., Kulkarni A., Suzuki Y. & Etoh H. (2005), A diterpene, sandaracopimaranol, produced by Japanese ceder and found from the deep seawater pumped up from the Suruga Bay. *Deep Ocean Water Research*, **6**, 47–50.
- Iwata T., Shinomura Y. & Suzuki Y. (2005), Relationship between salinity and nutrients in the subsurface layer in the Suruga Bay. *Journal of Oceanography*, **61**, 721–732.
- Magi M., Casareto B. E., Sizuki T., Honda Y., Suzuki Y. & Niraula M. P. (2005), Evaluating the effectiveness of artificial marine structures as upwelling-generators to enhance oceanic CO₂ sinks. *Greenhouse Gas Control Technologies 7: Proceedings of the 7th International Conference on Greenhouse Gas Control Technologies*, Vancouver, Canada, September 5, 2004, **1**, 791–799.
- Niraula M. P., Casareto B. E., Hanai T., Smith L. & Suzuki Y. (2005), Development of carbon biomass using incubations of unaltered deep-sea water. *Eco-Engineering*, **17**, 121–131.
- Shinomura Y., Iwata T. & Suzuki Y. (2005), Diel changes in dissolved organic carbon in the upper layer of Suruga Bay, Japan. *Estuarine Coastal and Shelf Science*, **62**, 699–709.
- Casareto B. E., Charpy L., Blanchot J., Suzuki Y., Kurosawa K. & Ishikawa Y. (2006), Phototrophic prokaryotes in Bora Bay, Miyako Island, Okinawa, Japan. *Proceedings of 10th International Coral Reef Symposium*, Okinawa, Japan, June 28–July 2, 2004, 844–853.
- Ishikawa Y., Suzuki Y., Casareto B. E., Oomori T. (2006), Organic production and calcification in coral reef communities in Bora Bay, Miyako Island, Okinawa, Japan. *Proceedings of 10th International Coral Reef Symposium*, Okinawa, Japan, June 28–July 2, 2004, 913–924.
- Natori Y., Haneda A. & Suzuki Y. (2006), Vertical and seasonal differences in biogenic silica dissolution in natural seawater in Suruga Bay, Japan: Effects of temperature and organic matter. *Marine Chemistry*, **102**, 230–241.
- Shiroma K., Suzuki Y., Casareto B. E. & Agostini S. (2007), Effective evaluation of nutrient cycles in coral. *Proceeding of International Symposium on Application of a Closed Experimental System to Modeling of ¹⁴C Transfer in the Environment*, Rokkasho, Aomori, Japan, November 15–16, 2007, 202–207.
- 石川義朗・藤村弘行・鈴木 欽 (2007), チェンバー法による亜熱帯海域の底生生物群落の基礎生産量の評価. *Eco- Engineering*, **19**, 173–177.
- Fukami K., Tateda Y., Kurosawa K., Suzuki Y., Ikeda Y., Sugioka S. & Wattayakorn G. (2007), Carbon flux as microbial biomass for evaluating potential CO₂ fixation in mangrove ecosystems. *Greenhouse Gas and Carbon Balances in Mangrove Coastal Ecosystems: proceeding books of the International Symposium on Greenhouse Gas and Carbon Balances in Mangrove Coastal Ecosystems Greenmang 2005*, Tsukuba, Japan, October 3–4, 2005, 27–31.
- Kurosawa K., Yamaki M., Hagawa T., Suzuki Y., Tateda Y. & Toriumi H. (2007), Contributions of inorganic and organic nitrogen flux originated from the swamp porewater against inorganic and organic nitrogen flux by tidal exchange in Fukido mangrove ecosystem. *Greenhouse Gas and Carbon Balances in Mangrove Coastal Ecosystems: proceeding books of the International Symposium on Greenhouse Gas and Carbon Balances in Mangrove Coastal Ecosystems Greenmang 2005*, Tsukuba, Japan, October 3–4, 2005, 79–91.
- Nilaura M. P., Casareto B. E., Smith L., Hanai T. & Suzuki Y. (2007), Examining the effects of nutrients on the composition and size of phytoplankton using unaltered deep-sea waters. *Jounal of Experimental Marine*

- Biology and Ecology*, **348**, 23–32.
- Smith L., Casareto B. E., Nilaura M. P., Suzuki Y., Hargreaves J. C., Annan J. D. & Yamanaka Y (2007), Examining the regeneration of nitrogen by assimilating data from incubations into a multi-element ecosystem model. *Journal of Marine Systems*, **64**, 135–152.
- Usui M., Tanaka S., Miyasaka H., Suzuki Y. & Shioi Y. (2007), Characterization of cysteine protease induced by oxidative stress in cells of *Chlamydomonas* sp. strain W80. *Physiologia Plantarum*, **131**, 519–526.
- Agostini S., Suzuki Y., Casareto B. E., Nakano Y., Fairoz M. F. M., Shiroma K. & Daigo K. (2008), New methods to study the coral symbiotic complex: Application to vitamin B₁₂. *Proceedings of the 11th International Coral Reef Symposium*, Ft. Lauderdale, Florida, July 7–11, 2008, 917–921.
- Casareto B. E., Charpy L., Langlade M. J., Suzuki T., Oba H., Niraula M. P., Suzuki Y. (2008), Nitrogen fixation in coral reef environments. *Proceedings of the 11th International Coral Reef Symposium*, Ft. Lauderdale, Florida, July 7–11, 2008, 890–894.
- Daigo K., Nakano Y., Casareto B. E., Suzuki Y. & Shioi Y. (2008), High-performance liquid chromatographic analysis of photosynthetic pigments in coral: An existence of a variety of epizoic, endozoic and endolithic algae. *Proceedings of the 11th International Coral Reef Symposium*, Ft. Lauderdale, Florida, July 7–11, 2008, 123–127.
- Fairoz M. F. M., Suzuki Y., Casareto B. E., Agostini S., Shiroma K. & Charpy L. (2008), Role of organic matter in chemical symbiosis at coral reefs: Release of organic nitrogen and amino acids under heat stress. *Proceedings of the 11th International Coral Reef Symposium*, Ft. Lauderdale, Florida, July 7–11, 2008, 895–899.
- Nakagawa Y. & Suzuki Y. (2008), Production of lower-trophic organisms during incubation of unaltered deep-sea water. *Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*, **362**, 32–37.
- Shiroma K., Suzuki Y., Daigo K., Agostini S., Fairoz M. F. M. & Casareto B. E. (2008), Nitrogen dynamics in symbiotic relationships in corals. *Proceedings of the 11th International Coral Reefs Symposium*, Ft. Lauderdale, Florida, July 7–11, 2008, 931–934.
- 宗林留美・名取雄太・花井孝之・青木一永・鈴木 款 (2009), 駿河湾における有機態窒素・リンの分解. *月刊海洋*, **41**, 156–161.
- Agostini S., Suzuki Y., Casareto B. E., Nakano Y., Hidaka M. & Badrun N. (2009), Coral symbiotic complex: Hypothesis through vitamin B₁₂ for a new evaluation. Galaxea, *Journal of Coral Reef Studies*, **11**, 1–11.
- Casareto B. E., Nilaura M. P., Fujimura H., Suzuki Y. (2009), Effects of carbon dioxide on the cocolithophorid *Pleurochrysis carterae* in incubation experiments. *Aquatic Biology*, **7**, 59–70.
- Ohba H., Casareto B. E. & Suzuki Y. (2009), Primary producers and nitrogen fixers colonizing coral rubble of coral reefs at Ryukyus, southern Japan. *Phycologia*, **48**, 98–99.
- 鈴木 款 (2010), 第25回海洋化学学術賞(石橋賞)受賞記念論文 海洋における有機物の循環と生物共生系に関する研究. *海洋化学研究*, **23**, 84–106.
- Charpy L., Palinska K. A., Casareto B. E., Langlade M. J., Suzuki Y., Abdr R. M. M. & Golubic S. (2010), Dinitrogen-fixing cyanobacteria in microbial mats of two shallow coral reef ecosystems. *Microbial Ecology*, **59**, 174–186.
- Higuchi T., Fujimura H., Hitomi Y., Arakaki T., Oomori T. & Suzuki Y. (2010), Photochemical formation of hydroxyl radicals in tissue extracts of the coral *Galaxea fascicularis*. *Photochemistry and Photobiology*,

86, 1421–1426.

Shiroma K., Suzuki Y., Casareto B. E. & Ishikawa Y. (2010), Effects of heat stress and nitrate enrichment on nitrogen allocation in zooxanthellate corals. *Eco-Engineering*, **22**, 101–104.

Sohrin R., Imazawa M., Fukuda H. & Suzuki Y. (2010), Full-depth profiles of prokaryotes, heterotrophic nanoflagellates, and ciliates along a transect from the equatorial to the subarctic central Pacific Ocean. *Deep-Sea Research II*, **57**, 1537–1550.

宗林留美・今西國松・鈴木 款 (2011), 千島・オホーツク海における溶存有機物の観測結果. 月刊海洋, **43**, 655–661.

鈴木 款 (2011), 海洋の二酸化炭素の調節と海洋生態系の役割：鍵は有機物循環. *Bulletin of the Society of Sea Water Science, Japan*, **65**, 21–28.

Cuet P., Atkinson M. J., Blanchot J., Casareto B. E., Cordier E., Falter J., Frouin P., Fujimura H., Pierret C., Suzuki Y. & Tourrand C. (2011), CNP budgets of a coral-dominated fringing reef at La Réunion, France: Coupling of oceanic phosphate and groundwater nitrate. *Coral Reefs*, **30**, 45–55.

Fairoz M. F. M., Suzuki Y. & Casareto B. E. (2011), Behavior of dissolved organic matter in coral reef waters in relation with biological processes. *Modern Applied Science*, **5**, 3–11.

Irikawa A., Casareto B. E., Suzuki Y., Agostini S., Hidaka M. & Woesik R. (2011), Growth anomalies on *Acropora cytherea* corals. *Marine Pollution Bulletin*, **62**, 1702–1707.

Sohrin R., Isaji M., Obara Y., Agostini S., Suzuki Y., Hiroe Y., Ichikawa T. & Hidaka K. (2011), Distribution of *Synechococcus* in the dark ocean. *Aquatic Microbial Ecology*, **64**, 1–14.

Tanaka S., Ikeda K., Miyasaka H., Shioi Y., Suzuki Y., Tamoi M., Takeda T., Shigeoka S., Harada K. & Hirata K. (2011), Comparison of three *Chlamydomonas* strains which show distinctive oxidative stress tolerance. *Journal of Bioscience and Bioengineering*, **112**, 462–468.

宗林留美・今西國松・鈴木 款 (2012), オホーツク海における溶存有機炭素の分布と輸送. 月刊海洋, **44**, 478–485.

Agostini S., Suzuki Y., Higuchi T., Casareto B. E., Yoshinaga K. & Nakano Y. (2012), Biological and chemical characteristics of the coral gastric cavity. *Coral Reefs*, **31**, 147–156.

Casareto B. E., Niraula M. P. & Suzuki Y. (2012), Dynamics of organic carbon under different inorganic nitrogen levels and phytoplankton composition. *Estuarine, Coastal and Shelf Science*, **102–103**, 84–94.

Charpy L., Casareto B. E., Langlade M. J. & Suzuki Y. (2012), Cyanobacteria in coral reef ecosystems: A review. *Jounal of Marine Biology*, doi:10.1155/2012/259571.

Weil E., Irikawa A., Casareto B. E. & Suzuki Y. (2012), Extended geographic distribution of several Indo-Pacific coral reef diseases. *Diseases of Aquatic Organisms*, **98**, 163–170.